



手づくり郷土賞について

受賞記念発表会

講評

大賞部門

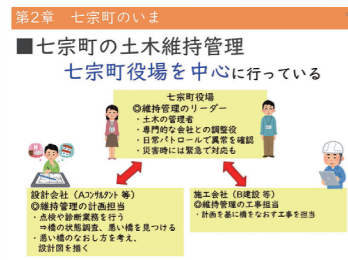
一般部門

資料編

1 社会資本の概要

七宗町では、町が管理する多くの橋梁が建設後50年以上を迎え、橋梁の老朽化が急速に進んでいます。七宗町が管理する橋は163橋あり、そのうち現存する一番古い橋梁は73年前に築造されました。163橋のうち、約6割にあたる112橋に不良箇所等が確認されております。さらにそのうちの4～5橋が早期に補修する必要があります。

このような土木施設を七宗町の職員が維持管理のリーダーとなり、専門的な会社との調整役、日常パトロールのほか、災害時の対応などを担っていますが、町財政の逼迫、職員数の減少などにより、十分な管理を行えていないのが実情です。



維持管理の現状



既存不適格橋を確認する自治体職員



補修前の高欄の状況

2 取組の背景、取組概要と創意・工夫

インフラメンテナンス国民会議中部フォーラムが自治体の困りごとに寄り添う活動の中で、いろいろな取り組みが始まりました。令和4年度は周辺自治体職員とともに、小規模橋梁にて防錆処理等の簡易補修のDIY研修を通じ、職員だけで補修する場合の課題を抽出しました。令和5年度は、既存不適格橋を考える研修を通じ、災害時に通行止のリスクがある橋梁において普段から住民との合意形成を図

る取組の重要性を改めて痛感しました。このため、令和6年度には、小学校5・6年生を対象に、インフラメンテの必要性を理解するための座学と児童による高欄塗装実習を行う体験イベントを開催しました。イベントの実施にあたっては、児童が実際に橋を塗り替えるなど、地域インフラに対する関心と愛着を育む取組となるよう配慮しました。



職員による防錆処理等のDIY研修



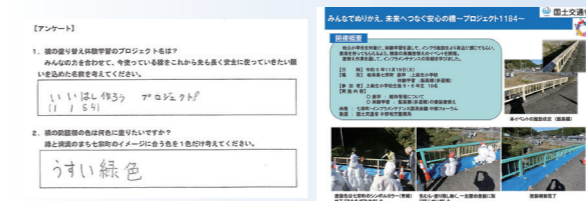
橋のクイズに挑戦する児童



真剣な眼差しで塗装する児童

3 活動の成果や波及効果等

- ・地元小学生がプロジェクト名を考案したり、実際に手を動かしたりすることで、公共インフラの老朽化や維持管理の大切さを自分事として考え、肌で感じ、自分たちの暮らしとインフラとのつながりを実感する機会となりました。
- ・小学生の感想では、橋が綺麗になって良かった、これからも橋を大事にしたいなどの意見がありました。
- ・インフラメンテナンス国民会議中部フォーラムや地元建設業者が協力し、専門的な知識や技術の提供を通じて、地域と行政、民間が連携した体制が構築されました。
- ・町広報誌や新聞報道、SNS等を通じて情報発信され、他の自治体やインフラ関係者からも関心が寄せられ始めています。



プロジェクト名の考案



国土交通省がXに投稿



専門業者から技術指導



七宗1184賞表彰式

所在地

岐阜県加茂郡七宗町
上麻生字一本木2429-7ほか

活動主体及び連絡先

七宗町役場建設課 TEL:0574-48-1113

対象となる社会資本

飯高橋(令和6年)、笹尾橋(令和5年)、
奥田橋(令和4年)

喜びの声



受賞者

七宗町役場
建設課

コメント

本取組では産学官が連携し、次世代を担う地元小学生が、インフラの役割や重要性を体感して学び、土木について興味を持つきっかけを創出しました。この度の受賞を関係者一同大変喜んでおります。この受賞を励みに、今後も産学官の連携をさらに深め、地域と共にインフラを守り、未来につなぐ取り組みを進めてまいります。

活動の内容

- 小規模橋梁を対象としたDIY研修
- 既存不適格橋を考える研修
- インフラメンテの必要性の座学
- 児童による高欄塗装実習を行う体験イベント

活動の経歴

- 令和4年度 小規模橋梁を対象としたDIY研修
- 令和5年度 既存不適格橋梁を考える研修
- 令和6年度 上麻生小学校を対象とした座学、高欄塗装実習
- 令和7年度 神淵小学校を対象とした座学、高欄塗装実習
- 令和7年度 インフラメンテナンス大賞(優秀賞)受賞



手づくり郷土賞について

受賞記念発表会

講評

大賞部門

一般部門

資料編